

令和8年度
重要要望書



山 SAN 海 KAI 里 RI のくに
福井 南越前町

日ごろより、南越前町のまちづくりにつきまして、格別のご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

また、令和4年8月の大雨災害からの復興は着実に進んでおり、これまでのご支援、ご協力に対し、改めて感謝申し上げます。

さて、本町は本年5月公表の令和7年国勢調査速報値によると、人口が8,949人となり、前回調査より1,000人以上減少するなど、人口減少が加速しております。

少子高齢化の進行に伴い、医療・介護人材の確保や交通空白地域への対応など、本町を取り巻く課題は深刻化しており、人口減少に適応した持続可能なまちづくりが急務となっております。

一方で、旧北陸線トンネル群や今庄宿、河野の北前船主通りなど、先人たちが守り続けてきた歴史遺産が相次いで文化財等の指定を受け、地域活性化の大きな強みとなっております。

また、年間120万人が訪れる道の駅「南えちぜん山海里」を観光振興の拠点施設として位置付けており、北陸新幹線敦賀開業や今後の中部縦貫自動車道の県内全線開通、国道365号栃ノ木峠道路の開通を、交流人口及び関係人口の拡大につなげる好機と捉えております。

こうした機会を生かしながら、地域産業の振興、観光拠点の整備、地域医療・介護体制の充実及び公共交通網の維持・強化を図るためには、県のさらなる支援が不可欠であります。

つきましては、次に掲げる事項は、本町の魅力あるまちづくりと持続的な発展を進めるうえで極めて重要でありますので、その実現に特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年8月31日

南越前町長 仲 倉 典 克

要 望 事 項 目 次

【最重点事項】

1	南越前町への農業総合施設の整備について	1
2	ハピラインふくい今庄駅における 鉄道観光拠点施設の整備について	3
3	公立医療・介護施設の安定的な運営を 維持するための財政支援について	5
4	地域医療体制、および保健施策の充実について	6
5	町内ハピラインふくい線沿線駅の利便性向上について	7
6	地域公共交通の維持・確保及び活性化に対する支援について	9

【重点事項】

7	障がい福祉施策の充実について	10
8	鳥獣害対策に対する支援の強化について	11
9	越前水仙の安定的生産と産地再生に向けた支援について	12
10	こども・子育て支援の充実について	14
11	国道365号の消雪施設の整備促進について	15
12	国道365号栃ノ木峠道路の 早期着工・完成について	16
13	国道8号の強靱化について	17
14	日野川地区水道用水供給事業の供給単価の低減および 補助制度の見直しに関する国への要請について	18
15	多様な児童生徒が共に学ぶ環境の実現 （教職員等の定数改善・充実）について	19
16	「国指定文化財保存活用等事業」に対する 支援について	20

〔農林水産部〕

南越前町への農業総合施設の整備について

福井県内の農業従事者は年々減少しており、農業の4Kを進めるためには、農業の魅力の全国発信による販路拡大や人材確保の強化、中山間地域でのスマート農業の展開や鳥獣害対策の強化などが重要となっています。

このような中、当町は、福井県農業の更なる発展に向けた研究、技術開発、機能強化を目的に、農業試験場等の機能集約や再編、水田経営の担い手育成に向けた育成機関の設置、農業経営アクセラレーションセンターの体制強化、観光連携、効果の見える鳥獣被害防止対策、2050年カーボンニュートラルに向けた技術開発、先進的な農業AIの開発など、農業の基幹事業を福井県と協働し展開したいと考えております。

当町は、福井県の中心部に位置し、嶺北と嶺南、福井県と関西・中京方面を結ぶ要所であり、観光産業の面では、国県道、鉄道、高速道路といった主要交通網が整っており、年間120万人が訪れる道の駅「南えちぜん山海里」を中心に、年間の県外客は県内トップクラスとなっています。

主産業である農業に関しては、当町の豊かな土地と水資源、優れた自然環境の中で育まれる農作物や農業技術が、地域農業の発展を支えるとともに、町民の生命と財産を守る貴重な財産となっており、我が町との協働・連携は、福井県が進める「次世代へつなぐ、希望あふれるふくい食・農・環境計画」の一役を担うことができるものと考えております。

つきましては、次の事項について強く要望します。

福井県の農業の情報発信、試験研究、技術研究、人材育成などを
担う農業総合施設を当町に整備

南越前町への農業総合施設の整備について（重点要望）

要望事項 南越前町に、農業の情報発信、試験研究、技術研究、人材育成の機能を兼ね備えた施設を整備すること

農業の方向性と施設の機能

◆本県における環境変化と農業施策の展開

- 一昨年春の北陸新幹線敦賀開業に加え、今後の中部縦貫自動車道の県内全線開通、国道365号栃ノ木峠道路開通による交流人口の増加が見込まれる
- 農業従事者が減少する中、本県農産物、さらに農業の魅力を全国に発信し、販売の拡大や人材の確保につなげることが必要
- 中山間地域における農業の4Kを進めるため「中山間地域でのスマート農業の展開」「鳥獣害対策」などの新たな研究開発の展開が必要

◆本県農業の更なる発展に向けた研究・技術開発・機能強化など

- 農業試験場、園芸研究センターの機能を本町に集約・再編し、新たな研究技術の開発や試験研究基盤を強化
- 中山間地農業の課題解決に向けた省力化や高収量化などの研究、地域農業の維持・発展を目指すための中山間農業研究所等の整備
- 水田経営の担い手育成に向けた田んぼカレッジの設置、新規就農者の経営基盤の確保
- 農業経営アクセラレーションセンターの体制強化、リーディングファームの確立
- 福井県農業・県産農産物の情報発信、観光との連携による持続可能な新産業の創出
- 有害鳥獣による農作物被害の低減に関する研究および効果の見える被害防止手法の開発・普及
- 地球環境保全への取り組み、2050年カーボンニュートラルに向けた技術開発
- 先進的な農業AIの研究開発、通信ネットワーク、データ連携基盤の確立

南越前町の地理的・機能的メリット

- 道の駅「南えちぜん山海里」は年間120万人が来場、県外客84.2万人は県内トップクラスで、強い観光連携や効果ある情報発信が可能
- 県中央部に位置し、現農業試験場まで車で30分、現園芸研究センターまで同40分、北陸自動車道ICや鉄道駅も近いといった交通至便なエリア
- 小中学校、商工会、農協、地域おこし協力など多様な主体が農業発展に積極的であり、連携による共創活動を強力に推進、官民の連携拠点である福井県農林水産地方創生センターとの効果的な連携も可能
- 豊かな土地、水資源、優れた自然環境、多様な文化、良好な景観等に恵まれた地域であり、農作物の生産開発研究に適した環境が整っている
- 県内80%のシェアをもつ鶏卵農場との協力による耕畜連携が可能
- エコクリーンセンター南越（ごみ焼却施設）の発生熱を利用した農地利用や施設利用、新たな生産技術の研究が可能
- 担い手組織の農地集積や地域貢献力が高く、農遊ツアーや食と農の魅力を学ぶ機会の拡大などに対して当組織と協力・連携した取組みが可能

【候補地】道の駅「南えちぜん山海里」周辺

【交通至便】

- ・北陸自動車道（南条SIC）
- ・ハピラインふくい南条駅
- ・主要国道が南北を縦断

【周辺の主な施設】

- ・道の駅「南えちぜん山海里」
- ・FRUITFUL GARDEN「ひのの実」
- ・VEGGIE GARDEN とろっさ
- ・エコクリーンセンター南越
- ・南越前文化会館
- ・南越前町役場
- ・南越前中学校、南条小学校

【環境条件等】

- ・平野部で農地条件や気候条件も良く、収量が安定
- ・圃場区画整備やパイプライン化による安定した生産基盤
- ・観光拠点施設に隣接することから、農観連携がとりやすく、強力な情報発信が可能。



ハピラインふくい今庄駅における鉄道観光拠点施設の整備について

北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせ、これまで新幹線駅4駅の周辺整備に加え、東尋坊（坂井市）、一乗谷朝倉氏博物館（福井市）、恐竜博物館新館（勝山市）、六呂師高原（大野市）、レインボーライン（美浜町・若狭町）などの大規模観光地の開発、さらに、アリーナ整備（福井市）の計画が、県も参画して進められています。

今後、県内の観光施設を線としてつなげ、さらなる誘客や県内滞在時間の拡大につなげていくためには、新幹線駅ともつながるハピラインふくい駅周辺において、地域資源を活かした観光施設を整備する必要があると考えています。

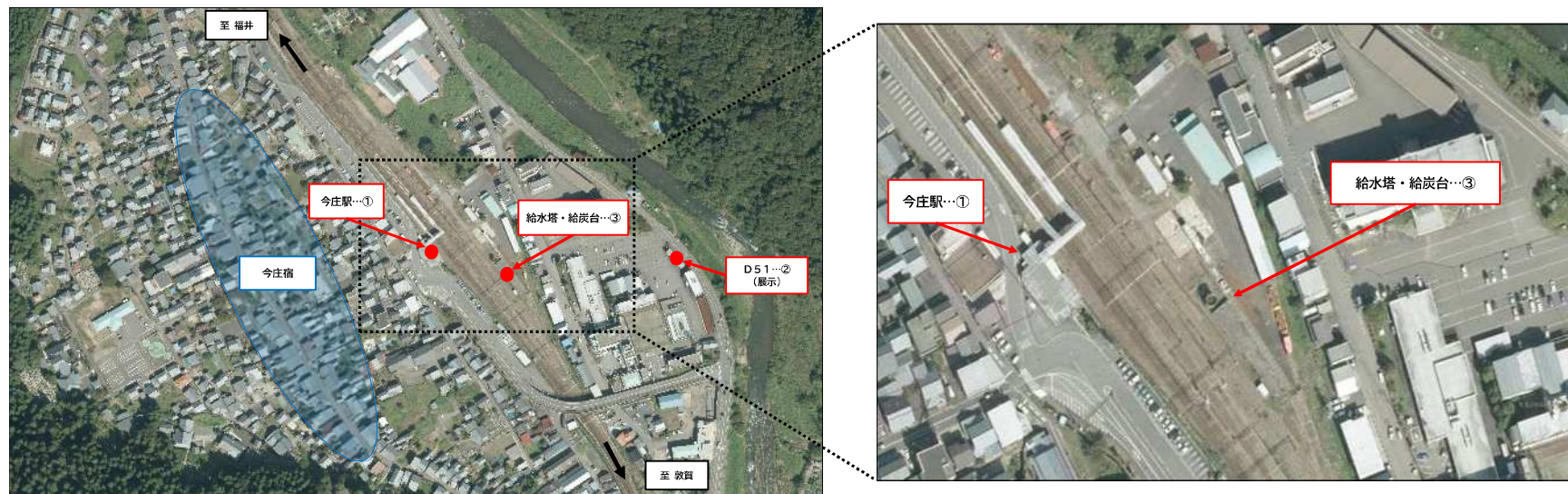
ハピラインふくい今庄駅内には、日本遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる 鉄道のキセキ～」の構成文化財である「給水塔・給炭台」があるほか、徒歩圏内には「D51」も展示されています。また、町内には山中トンネルや山中信号所跡、大桐駅跡などの多くの鉄道遺産が存在しています。

さらに、今庄駅前には国の重要伝統的建造物群保存地区でもある「今庄宿」や国指定重要文化財となる「旧京藤甚五郎家住宅」も有しており、少し足を延ばせば「板取宿」や「杣山城跡」もあり、歴史・文化を感じる一大観光拠点となりうるエリアであります。

つきましては、次の事項について要望します。

- 1 今庄駅における給水塔・給炭台などの鉄道遺産を活用した観光拠点施設の県と町との連携による整備の促進
- 2 全国に150万～200万人いると言われる鉄道ファン向けのイベントの継続的な開催

ハピラインふくい今庄駅における鉄道観光拠点施設の整備について



公立医療・介護施設の安定的な運営を 維持するための財政支援について

当町では、中山間地域やへき地における公立医療・介護の拠点として、2つの診療所（今庄診療所と河野診療所）と老人保健施設を運営しています。

しかしながら、近年の人件費・物価の高騰に加え、築30年以上が経過した施設の老朽化に伴う修繕費や医療機器の更新費用が、町の財政を大きく圧迫しています。

施設の運営に対する国や県の補助金等は公立施設が対象外となるケースが多く、施設設備の整備に対する国の補助金等は補助基本額や補助率が低く、独自の努力だけでは赤字経営からの脱却は困難な状況です。

また、民間医療機関は、後継者不在により廃院となる見込みであり、当町における地域医療・介護体制の維持には公立施設の存続が不可欠です。

このような中、令和8年4月から今庄診療所（有床）と河野診療所（無床）との連携強化を図っており、今後はオンライン診療の実施や電子カルテの共通化など一体的な運営による経営改善に取り組んでいくところですが、このままでは施設の運営継続が危ぶまれ、住民が必要な医療・介護サービスを受けられなくなる恐れがあります。

つきましては、県独自の財政支援策を講じていただきますよう、次の事項について要望いたします。

- 1 人件費、燃料費、光熱水費、感染症対策費など、公立医療・介護施設の安定的な運営に必要な経費に対する補助制度を創設
- 2 老朽化した施設の修繕費や医療機器の更新費用に対する補助制度を創設

担当課： 健康福祉課

地域医療体制、および保健施策の充実について

丹南医療圏は、急性期患者の流出率が高く、医療資源（施設、人材）が分散しており、就業看護師数が県内で最も少ないという厳しい状況にあります。

地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するためには、現在の医療機関等を維持しながら、住民ニーズに応じた地域医療体制を構築することが重要ですが、医師・看護師等の高齢化や不足により医療機関等の存続自体が危ぶまれています。

当町では、令和8年3月に福井大学との包括連携協定を締結し、翌4月には「南えちぜん家庭医療・地域医療研修センター」を設立して教育の機会提供による医師の確保および地方創生医療に取り組んでいるところですが、今後の医師派遣について見通しが立たない状況です。

また近年、高齢者向けのB類疾病予防接種については、対象拡充とワクチン費用の高騰により事業費が増大する一方、自治体が独自に自己負担分を助成していることから、財政負担が増加しています。

つきましては、次の事項について要望いたします。

- 1 地域医療・在宅医療に携わる人材の確保・育成を推進するとともに、へき地診療所や医師少数地域への医師派遣体制を強化
- 2 B類疾病定期予防接種に係る地方自治体の負担を軽減するため、補助金等新たな公費助成制度を創設するよう、国に対する働きかけ

担当課： 健康福祉課

町内ハピラインふくい線沿線駅の利便性向上について

本町には、「株式会社ハピラインふくい」が運行する並行在来線が南北に縦断しており、町内には南条駅、湯尾駅、今庄駅及び南今庄駅の4駅が所在しております。これらの駅は、買い物や通院、ビジネスといった町民の日常生活に欠かせない交通手段であるとともに、当町に訪れる観光客やインバウンドにとっても極めて重要な役割を担っております。

しかしながら、南条駅、湯尾駅及び今庄駅においては、駅舎から各ホームへ移動する際に地下通路又は跨線橋を利用する必要があり、高齢者や体の不自由な方、さらには小さな子ども連れの方にとって、階段の昇降が大きな負担となっております。

人口の約4割が高齢者である本町にとって、この移動負担の解消は喫緊の課題であります。

今庄駅においては、令和8年3月7日より下り線ホームへ直接移動できる通路の供用が開始され、利便性の向上が図られたところではございますが、依然として、同駅の上り線ホーム及び南条駅・湯尾駅の下り線ホームへの移動は階段に限定されており、バリアフリー化が喫緊の課題となっております。

つきましては、次の事項について要望します。

- 1 中山間地域における並行在来線駅のバリアフリー化の推進
- 2 鉄道事業者への積極的なバリアフリー化の働きかけと連携強化
- 3 南条駅、湯尾駅及び今庄駅におけるバリアフリー化に関する整備
(設計等含む)に係る財政支援

町内ハピラインふくい線沿線駅の利便性向上に関する要望書＜図面＞

（状況）

町内に所存する4駅は、買い物や通院、ビジネスといった町民の日常生活に欠かせない交通手段であるとともに、当町を訪れる観光客やインパウンドにとっても極めて重要な役割を担っている。

（課題）

高齢者や身体の不自由な方、さらには小さな子ども連れの方にとって、階段の昇降が大きな負担となっている。

（要望要旨）

誰もが安全かつ円滑に駅施設を利用できるよう、利便性の向上に向けたバリアフリー整備の推進に係る地域の実情に応じた方針の提示ならびに当整備にあたっての地方財政負担の軽減。

【南条駅】

設置時期：明治29年7月
利用者数：92,700人／年

＜課題／対策＞

下り線ホームへ移動する際の階段昇降による身体的負担を解消するため、改札口から直接下り線ホームへアクセスできる構内通路の整備や、スロープの設置による段差のない移動経路の整備確保。



【湯尾駅】

設置時期：昭和23年9月
利用者数：21,700人／年

＜課題／対策＞

下り線ホームへ移動する際の階段昇降による身体的負担を解消するため、改札口から直接下り線ホームへアクセスできる構内通路の整備や、スロープの設置による段差のない移動経路の整備促進。



【南今庄駅】

設置時期：昭和37年6月
利用者数：1,7005人／年

状況：改札口から下り線ホームと上り線ホームに直接移動できる構内通路が整備されている



【今庄駅】

設置時期：明治29年7月
利用者数：39,000人／年

＜課題／対策＞

既にバリアフリー化された下り線ホームと同様に、上り線ホームにおいても、階段を使用せずに直接移動が可能となる構内通路の整備やホームの段差解消等の改善に向けた施設整備の促進。



地域公共交通の維持・確保及び活性化に対する支援について

本町では、人口減少や高齢化の進行に伴い、地域住民の移動手段の確保が重要な課題となっております。本町が運行するA I オンデマンドバス（らくらくおでかけバス）については、県の生活バス路線維持対策事業補助金（市町生活交通維持支援事業補助金）を活用しておりますが、補助限度額は平成20年度から据え置かれています。一方で、燃料費や人件費をはじめとする運行経費は近年の物価高騰を背景に大幅に上昇しており、自治体負担は年々増加しております。このため、地域公共交通を安定的に維持するためには、社会情勢を踏まえた補助限度額の見直しなど、更なる制度の充実が必要となっております。

また、特に山間部や海岸部などの地域においては、著しい人口減少及び高齢化が進行する中、町外へ直接移動できる公共交通手段が限られており、当該地域に住む学生や高齢者の日常的な移動手段の確保が課題となっております。今後は既存交通の維持に加え、自家用有償旅客運送など新たな交通施策の導入も見据えており、更なる財政負担の増加が見込まれます。

地域の実情に応じた移動手段を維持・確保し、地域公共交通を活性化させるためには引き続き支援制度の充実が必要となっております。

つきましては、次の事項について要望します。

生活バス路線維持対策事業補助金（市町生活交通維持支援事業補助金）の補助限度額引き上げ

障がい福祉施策の充実について

筋ジストロフィーやALS（筋萎縮性側索硬化症）などにより、常に介護を必要とする方が住みなれた自宅での生活をするには、食事や入浴介助のほか、昼夜問わず体位変換や排泄介助、喀痰吸引等の医療的ケアを行う必要があります。しかしながら、家族だけによるケアには限界があり、ホームヘルパーが自宅を訪問し生活全般の介護サービスを行う「重度訪問介護」は必要不可欠です。

当町においては、重度訪問介護サービスを提供する事業所が令和8年4月に開設されたものの、ガソリン価格の高騰や人材不足に加え、利用者が少ない地域での採算性確保などの課題があり、事業所運営も大変厳しい状況にあります。

また、在宅の障がい者が利用する「通所系サービス」については、他市町の事業所を利用する方も多く、事業所による送迎が不可欠となっています。

しかしながら、送迎距離、職員数や車両の保有台数、ガソリン価格の高騰などの課題により、送迎できない地域があり、必要なサービス提供に支障が出ています。

つきましては、次の事項について要望します。

- 1 国に対し、重度訪問介護の基本報酬の引き上げや、夜間加算、距離に応じた報酬設定等、サービスの提供体制を確保するための報酬単価の見直しを働きかけ
- 2 通所系サービス事業における送迎加算の引き上げ、距離や送迎時間に対応した加算額の見直し、車両購入に係る補助金等の導入

鳥獣害対策に対する支援の強化について

当町では、侵入防止柵や捕獲檻の整備、ガバメントハンターと捕獲隊員の連携による捕獲体制の強化に取り組んでおります。さらに、本年6月には大阪経済大学と連携協定を締結し、AIくくり罠の研究開発や追い払いロボットの実証実験など、先進技術を活用した対策の導入を進めております。

しかしながら、被害は依然として深刻であり、クマ等による人身被害リスクの増大や、捕獲頭数の増加に伴う埋設処理の負担増など、新たな課題も生じております。

また、令和8年度の関連予算は1億円を超え、財政負担が増大するとともに、高齢化の進行により集落による防護柵の設置・維持管理が困難となっていることから、対策の継続・強化のためには財政支援が不可欠です。

このような状況のもと、本町としては、広域的かつ継続的な対策の強化とともに、地域の実情に応じた実効性の高い支援体制の確立が不可欠であると考えております。

つきましては、次の事項について要望いたします。

- 1 侵入防止柵整備について、中山間地域の実情に応じた費用対効果分析の算定方法の緩和
- 2 大型獣(ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ)の捕獲活動は危険を伴うため、止め刺し手数料や死骸処理手数料の助成上限単価の引き上げ
- 3 福井県特定鳥獣管理計画に基づくニホンジカの個体数調整の捕獲強化と関係市町への指導・支援

越前水仙の安定的生産と産地再生に向けた支援について

越前水仙は福井県の県花であり、当町を含む越前海岸は日本水仙の三大群生地の一つとして知られております。この地域で栽培される水仙は「越前水仙」のブランド名で全国に出荷されており、日持ちが良く香りも豊かであることから、お正月を彩る花として高い評価を得てまいりました。

また、厳冬の日本海に向かって咲くその姿は、本県の冬を象徴する風物詩として広く親しまれており、地域の歴史や自然環境と深く結びついた貴重な文化的景観として、国の重要文化的景観にも選定されております。

一方で、越前水仙を取り巻く状況は獣害の深刻化も相まって、生産基盤の維持が困難となっております。

このような状況のもと、当町では産地の維持・再生に向けた取組を推進する必要があると考えております。

具体的には、まず生産基盤の強化を図るため、休耕田となっている圃場を整備することにより、深刻化している球根不足の解消に向けた優良球根の増産と越前水仙の栽培面積の拡大を進め、生産基盤の再構築を図るものであります。また、地元企業や学生、ボランティア等と連携しながら、生産・出荷の体制づくりを進め、次世代の生産者育成や新規就農者の確保につなげるとともに、越前海岸に広がる越前水仙の景観を復活し、越前水仙を核とした地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

つきましては、次の事項について要望いたします。

- 1 南越前町水仙復活プロジェクト(仮称)の推進に対する技術的支援
および財政支援
- 2 水田転換地における生育課題の解決や、収量・品質向上に資する
栽培技術の確立に向けた試験研究及び普及体制の強化

担当課： 農林水産課

越前水仙の安定的生産と産地再生に向けた支援について

南越前町水仙復活プロジェクト（仮称）南越前町

目 的

福井県を代表する越前水仙の畑は、令和3年3月に越前町の上岬、福井市の下岬、南越前町の糠の水仙畑が国の重要文化的景観に選定されました。これは、県内初の指定であり、かつ、花の栽培地の文化的景観としては全国初の選定であります。

しかしながら、現地では獣害による食害等によって越前水仙が無くなり生産者の栽培意欲の低下を生み、産地・景観としては衰退の一途となっています。このような、重要な景観と福井県の花である「越前水仙」の栽培を将来にわたり保全していく事を目指します。



福井県への要望内容

新たな生産基盤整備への支援

球根養成圃場の整備に必要となる「水田転換・排水対策・土壌改良・獣害防止施設」に対する技術的支援および財政支援

試験研究・技術支援

水田転換地等の平坦地域における球根養成について、生育上の課題解決・収量向上・品質向上に向けた栽培技術の試験研究の実施と普及指導体制の強化

南越前町の現状

（１）深刻化している獣害（ニホンジカ対策）

ニホンジカによる球根の食害や掘り起こし被害が拡大しており、生産量減少の大きな要因となっている。

（２）球根不足による産地衰退（開花球根の栽培）

産地内で球根の供給量が不足しており、新たな栽植や栽培規模拡大の妨げとなっている。

（３）生産基盤の整備（休耕田の活用）

水仙栽培地の多くは海岸沿いの急斜面に存在する。高齢化が進行し、作業負担が非常に大きい。新規・後継者確保が困難である。



糠地区が獣害により裸地状況となっている。

今後の取り組み

（１）獣害対策の強化（ニホンジカから越前水仙を守る！）

- ・特定鳥獣管理計画に基づく獣害対策の推進
- ・景観に配慮した防護柵の設置

（２）球根の生産体制構築（開花球根、分球促進技術の確立）

- ・球根養成圃場を整備し、球根の安定供給体制の確立
- ・生産活動組織設立を推進し、現在の越前水仙出荷協議会の発展に寄与する。

（３）休耕田での越前水仙栽培（水仙及び開花球根栽培推進）

- ・露地栽培と休耕田栽培の併用で生産基盤の強化を図る。
- ・生育障害に対する栽培技術の試験・研究



河野地区の休耕田を利用した球根養成・越前水仙栽培候補地

短期目標（3～5年）

- ・平坦地域での球根生産体制確立
- ・獣害被害の軽減

長期目標（5～10年）

- ・南越前町の越前水仙出荷量10万本達成
- ・海岸急斜面における水仙畑の復活
- ・新たな担い手の育成・発掘



甲楽城地区の休耕田を利用した球根養成・越前水仙栽培候補地

こども・子育て支援の充実について

当町では、安心してこどもを産み育てられる地域社会の実現を目指し、保育園等におけるおむつのサブスク制の導入、不妊治療に不育治療費助成を追加した補助上限額の撤廃、すみずみ子育てサポート事業「ふく育さん」の低料金化など、切れ目のない子育て支援に取り組んでいます。また、こどもの生活・遊び環境の変化を踏まえ、国や県の支援を受け新たなこどもの居場所づくりに着手するとともに、土曜保育の共同実施など人口減少に対応した児童福祉施設の連携強化を進めています。

しかしながら、近年、猛暑日の増加やクマの頻繁な出没により、保育園等の児童福祉施設における園外活動の制限、保護者による送迎対応、園内でのプール活動を含めた外遊びの中止など、子育て環境に大きな影響を生じています。

また、急激な少子化や公共施設の老朽化に伴い、多機能・集約化を視野に入れた適切な児童福祉施設の在り方を検討する必要性が生じています。

今後は、これらの子育て環境の変化や施設の老朽化を見据えながら、園外での体験を補うための園庭整備をはじめとする安全な子育て環境の整備・維持が不可欠であり、同時にこれらを支える専門人材の確保、安定した財源確保が課題と考えております。

つきましては、次の事項について要望します。

- 1 地域の実情を踏まえたこどもの安全な遊び場環境の確保や維持に対する財政的支援
- 2 保育士の加配や保育補助者の配置など、保育士の負担軽減と保育人材確保への継続的な支援

担当課： こども・子育て応援課

〔土木部〕

国道３６５号の消雪施設の整備促進について

国道３６５号は、令和７年度福井県道路雪対策基本計画において、最重点除雪路線に位置付けられ、北陸自動車道や国道８号、国道３０５号とならび、異常降雪時でも２車線以上の幅員を確保することとなっています。

しかし、平成３０年２月の豪雪時には、南越前町東大道～上平吹地係間において車両が通行不能となり、渋滞が発生しました。

この状況を改善するため、福井県において令和元年度から東大道～脇本地係間（約１．２km）の消雪施設を整備いただき、厚くお礼申し上げます。

今後これをさらに延長し、本路線における冬期間の円滑な道路交通の確保及び広域交流の促進、また、活力ある地域社会と良好な生活環境の形成を図る必要があると考えています。

つきましては、次の事項について要望いたします。

国道３６５号 脇本～上平吹地係間(約１.２km)の消雪施設整備の事業化

※当区間は消雪に活用可能な水利(農業用水パイプラインの冬季維持用水分での水利権)が確保されている

担当課： 建設整備課

〔土木部〕

国道３６５号栃ノ木峠道路の早期着工・完成について

国道３６５号は、石川県加賀市を起点に福井県・滋賀県を縦断し三重県四日市市に至る、産業・生活・物流はもとより国土強靱化の観点からも非常に重要な路線であります。

しかしながら、「栃ノ木峠道路」は冬期には長期の通行止めとなるほか、令和４年８月大雨などにより北陸自動車道、国道８号との同時通行止めが頻繁に発生するなど、道路ネットワークとして十分な機能を果たしておらず、トンネル化を含む３．８ｋｍの区間の整備は喫緊の課題であると認識しております。

一方、福井県側では、板取地係の明かり部において早期完成を目指した改良事業が推進されており、大変心強く、感謝しております。

昨年度には国直轄による権限代行による事業化が決定されたところですが、早期の工事着手に向けて、引き続き国への強い働きかけが必要であります。

つきましては、激甚化・頻発化する災害に備えるとともに、年間を通じた安全かつ円滑な道路交通の確保、そして緊急輸送路としての機能強化を図るためにも、栃ノ木峠のトンネル化の早期実現のため、次の事項について要望いたします。

国道３６５号栃ノ木峠道路（国直轄事業）の早期工事着手のため、滋賀県と連携し、国に対する要望を継続・強化

担当課： 建設整備課

〔土木部〕

国道8号の強靱化について

国道8号は、関西・中京方面と北陸・東北を結ぶ、産業・生活・物流はもとより、国土強靱化の観点からも非常に重要な路線です。

しかしながら、災害や事故などの交通障害が多発する区間が未だに残っており、特に南越前町大谷～敦賀市田結（約15.5km）においては、急峻な地形で、道路幅員も狭く急カーブや急勾配が続くことから、通行止めや交通渋滞が発生し円滑な交通の妨げとなっています。

令和4年8月大雨時には、南越前町大谷において路肩崩壊や土砂流出が発生し、92時間にわたり全面通行止め（片側交互通行は259時間）となり、交通のネットワークが分断され、人流・物流に甚大な影響を及ぼしました。

平常時、災害時問わず、本路線の安全かつ円滑な交通を確保することは、広域的な課題と考えています。

つきましては、次の事項について要望いたします。

国に対して以下の要望を継続・強化

- 1 敦賀防災(敦賀市挙野～田結間3.8km)の早期完成
- 2 大谷防災(南越前町大谷～敦賀市元比田間5.1km)の早期着工
と未事業化区間の早期事業化
- 3 8号防災のうち、残る南越前町具谷区間(1.6km)の早期完成

担当課： 建設整備課

日野川地区水道用水供給事業の供給単価の低減および
補助制度の見直しに関する国への要請について

当町の水道事業は、安全・安心な水道水の安定供給を確保するため、平成18年12月より日野川地区水道用水供給事業からの受水を開始しています。

当初は1 m³あたり113円だった供給単価も、平成23年度には97円、令和3年度には90円へと段階的に引き下げられており、これまでのご配慮に感謝申し上げます。

しかしながら、人口減少や節水機器の普及により料金収入は減少を続けている一方、老朽化に伴う施設更新や耐震化といった改修工事の本格化に伴う費用の増大により、経営環境は一層厳しくなっています。

令和元年度には20%の水道料金の引き上げを行い、維持費などのコスト削減にも取り組んでおりますが、近年の物価高騰や人件費の上昇などにより、当町の水道事業は依然として非常に厳しい状況にあります。

日野川地区水道用水供給事業においても、当町同様、物価高騰等の影響により厳しい状況にある一方で、毎年のように純利益が計上されていると承知しています。

つきましては、水道施設維持のため次の事項について要望いたします。

- 1 施設の適正化などコスト削減に努め、供給単価を低減
- 2 社会資本整備総合交付金に関して、補助率引き上げ、採択要件緩和など、制度の見直しを行うよう、国に対する要請

〔教育庁〕

**多様な児童生徒が共に学ぶ環境の実現
(教職員等の定数改善・充実) について**

近年の社会・家庭環境の変化により、ヤングケアラー、貧困家庭、愛着障害、学校不適応など、個別の支援を必要とする児童生徒が顕著に増えております。

発達障害のある児童生徒には、障害に応じた特別な支援が求められており、誰一人取り残されない教育の実現と質の向上のためには、学校現場のきめ細かな指導体制の充実が不可欠です。

また、近年の不登校児童生徒数の増加や、一人ひとりが抱える課題の複雑化に伴い、限られた校内サポートルーム支援員の配当時間だけでは対応しきれないケースが増えており、町の財政負担による支援員の時間延長を行わざるを得ない現状にあります。

つきましては、次の事項について要望いたします。

- 1 学校教育法施行規則に基づき、通級指導のための教員を確実に配置、併せて全校において正規教職員の確実な適正配置
- 2 特別支援学級の担任については、有免許者を配置することにより、質の高い支援体制を継続
- 3 不登校の兆しのある児童生徒の居場所づくりのための校内サポートルーム支援員配置事業について、実効性を高めるために配当時間の増加を図るとともに、引き続き県単独事業として実施
- 4 国が定めたデジタル教科書導入後の授業支援アプリや学習用ソフトの充実に向けた財政的支援

担当課： 教育委員会事務局

〔教育庁〕

「国指定文化財保存活用等事業」に対する支援について

当町には、貴重な国指定（選定）の文化財が数多く存在しており、昨年 8 月には、「旧京藤家住宅」が国の重要文化財に指定され、当町における国指定（選定）の文化財は 7 件目となりました。

地域の歴史・文化の継承と観光振興のために、これらの文化財の保存修理や公開活用を推進しており、これらの事業を計画どおり進めるために、国庫補助金および県費補助金の予算確保について要望いたします。

さらに、史跡や名勝の整備事業にかかる県費補助金の補助率 6 分の 1 に応じた満額の補助交付を受けられるよう、上限額の撤廃を要望いたします。

- 1 名勝「おくのほそ道の風景地 湯尾峠」整備事業
- 2 史跡「杣山城跡」整備事業
- 3 板取宿歴史的建造物等利活用促進事業
- 4 重要文化的景観「越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観」保存活用事業
- 5 重伝建地区「南越前町今庄宿伝統的建造物群保存地区」保存活用等事業
- 6 重要文化財「中村家住宅」建造物保存修理事業

担当課： 教育委員会事務局

令和8年度 南越前町重要要望位置図

